

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100422		
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団		
事業所名	グループホーム シオンの園 くつろ樹2号館		
所在地	佐賀県佐賀市大和町久留間3865番地1		
自己評価作成日	平成 30年 10月 27日	評価結果市町村受理日	平成31年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 30年 11月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園に囲まれた環境の中、顔なじみのスタッフが、入居者・ご家族一人ひとりと向き合いながら、自立支援を念頭に置き、家庭的で暖かみのあるサービスを提供できるよう努めています。また、これまで培ってきた運営のノウハウを基盤とし、認知症の病気によって起こる様々な症状に対し、専門スタッフが見守る中で、精神的な安定や、生活リハビリテーションを目的とし少しでも自宅のような生活を続けられるよう関わらせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成29年9月に、同一法人の特別養護老人ホーム、グループホームに併設して開設されたホームは、周りにみかん畑が広がり、静かな心地良い環境にある。長い歴史のある法人での経験を活かして、事業所の運営がされている。併設された他の施設と共同で避難訓練や祭り等を実施されている。職員も経験者が多く、自立を念頭に、家庭的で、暖かみある支援がされている。上司、職員間の関係も良く、自由に意見や要望を提案できる雰囲気にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の部会開催時、シオンの園「経営理念、処遇モットー」を全員で昭和し実践することを確認し合っている。事業所の基本方針は年度始めの事業計画書で確認をしている。	法人全体の理念を基に、毎年、事業所の基本方針を作っている。毎月の会議時、理念や基本方針を確認し、職員間に浸透するよう努め、日頃の業務に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体施設と共に自治会、老人会の方々の協力を得て、秋祭りを開催。また、地区行事に案内をいただいた際には、積極的に参加を予定している。	法人全体での秋祭りに、地元の方も参加するなど交流されている。また、敬老会やクリスマスなどには保育園の園児やボランティアなどが来訪して、踊り等を披露するなど、交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みかん倶楽部と称し地域の公民館等に向き、事業所の紹介や健康体操等の紹介を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、くつろ樹と合同で実施し、行事報告、予定、ホーム内での出来事、利用者様・職員の動向等を報告し、ご家族、民生委員様のご意見や質問について話し合いサービスの向上に活かす努力をしている。	同法人が経営しているグループホームと合同で2ヶ月に一回開催している。民生委員等が参加し、事業所の行事の報告や予定等を報告や、意見交換をして、出た意見はサービス向上に努めている。しかし、家族の参加は十分とはいえない。	行事に合わせた開催など、家族も参加しやすい取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において情報交換を行っており、情報交換や意見交換を行うことで協力関係を築いている。	介護保険の更新時に、入居者の現況を伝えている。また、日頃から業務について、適宜、報告・相談するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員が身体拘束について正しい理解ができるよう、園内研修会、事業所勉強会等を開催しており、正しい理解のもと身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また平成30年度より、身体拘束適正化の指針を定め、定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。	身体拘束マニュアルや指針の作成している。また、定期的に身体拘束適正化委員会や、事業所内で研修会や勉強会を開催することで、職員の理解が浸透するよう図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	4月に接遇マナーについてのチェック表を基に自己の振り返りを行い、常に意識を持ちながら日々の業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加はない。今後、研修会への参加や資料等での知識向上を図る必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約書、重要事項の十分な説明を行い、退居に際しても、十分な説明、話し合いの場を設け、ご理解・ご納得いただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議やカンファレンス会議に参加していただき、ご意見を尋ねる機会を設けている。また、面会時の会話の中より汲み取る努力もしている。	秋刀魚会や敬老会、クリスマス会など、家族が参加できる行事の開催があり、入居者の状況を知ることができる機会づくりをしている。また、面会時やカンファレンス時等に入居者の状況を伝える中で、家族から意見、要望を伺っている。出た意見はできるだけ反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1～2回の個人面談や毎月の部会等での意見、提案を上申している。	毎月の会議や毎年の個人面談の機会に職員から業務内容や備品等の意見、要望を聞いている。提案されたことは実現するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課及び福利厚生にも力を入れ、働きやすい環境作りに努められている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の教育訓練計画に基づき、職員の研修参加の機会を設け、知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部への研修会参加を通じ、同業者との交流の機会を持ち、他施設の状況や情報を収集し自施設のサービス向上に努める必要があるが、現時点では外部研修の参加をしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者により相談から利用に至るまで、十分に配慮している。施設内の見学を含め、管理者による面談等を通じ、本人様が安心してご利用いただけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者により相談から利用に至るまで、十分に配慮している。施設内の見学を含め、管理者による面談等を通じ、本人様が安心してご利用いただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネにて十分に配慮されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食前の配膳準備や食後の後片付け、洗濯物干しや洗濯物畳み等の家事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンス会議、運営推進会議棟を通じ、より良い信頼関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの方々の面会時は、居室へ案内するなど、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	日頃から、どなたでも気軽に訪問できるように配慮している。師弟関係者や友人、知人の方々が訪問されている。散歩時等に馴染みの場所を訪れるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を職員全員が共有し、ご利用者様お一人おひとりの個性を大切にしながら、席順の配慮やトラブルになる前の早目の対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の中での取り組みを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス会議や日々の生活の中で、常に本人様の希望を聞き出す努力をしている。また、いつでも利用者様主体であることを忘れずに取り組んでいる。	日頃から、仕草や態度などで本人の意向を汲み取るように努めている。外出先や家族との連絡などの要望があればできる限り叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集やカンファレンス会議、日常の会話、面会時の会話を通じ、生活歴や今までの経過を把握するよう努めている。今年度は西九州大学の「コラージュ」や「箱庭」療法の研究実践の場を提供し、職員も中に入り情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	此処の現状を把握できるよう、毎月の部会等で話し合いを行っており、また、急な変化についても連絡ノート等により職員間の連絡を密にとり、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にサービス担当者会議を開催し、半年に一度は、家族、ご利用者に同席していただき、意見や要望を反映した計画作成に努めている。	3ヵ月毎のモニタリングを基に、担当者会議で計画の見直しや検討を行っている。半年に1回は家族や入居者から意見や要望を聞き取り、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況は個別のケース記録に記入。また、毎月の部会においてもケアプランの実施状況等を協議しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人様やご家族の要望に応じ、対応できることについては臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は年2回以上の消防避難訓練を予定。また、くつろ樹事業所からの出火を想定した避難訓練も必要であり、下半期に実施する予定。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族の希望があれば、協力医へ主治医を変更しているが、以前からの主治医を希望される利用者様に関しては、ご家族を通じ密に情報交換を行うよう努めている。	協力医に主治医を変更された入居者は、定期的に、協力医に受診したり、訪問診療をお願いしている。以前からの医療機関を希望される入居者には家族の方に対応をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが「くつろ樹」やデイ大和勤務の看護師への相談や協力を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は定期的に病状伺いを行い、担当医、担当看護師、ご家族との情報交換を行いながら、早期退院に向けての話し合いの場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針及び看取りに関する指針を定めており、ご家族と十分に話し合いを行いながら方針を共有し、協力医療機関と共に支援していく体制作りを努めている。	入居時に、重度化や看取りの指針に基き、家族等に説明している。年1回職員研修を実施し、理解を深めている。看取りの状況になった時には、必要に応じて協力医と共に対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応できるよう周知徹底を行っており、その場の実践に備える努力をしているが、より一層の職員教育が必要と思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災自動通報装置、消火器、スプリンクラーを設置。また、毎年消防計画を作成し、昼間・夜間帯での定期的な消防訓練を予定。	事業所内では、年2回夜間想定も含め避難訓練を実施している。地域内全体で、年1回地震を想定した訓練を実施して、それぞれの避難箇所の確認をしている。しかし、地域の方の参加はこれからである。	避難訓練にあわせた運営推進会の実施など、地域の代表者の方から参加しやすい工夫をすることで、更なる安全な避難となる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会、勉強会を通じ、常に個人の尊厳を重視した対応を心掛けている。	毎年、業務についての自己チェック表を基に、入居者に対する態度や言葉遣いを検討している。入居者の人格や誇りを尊重するよう研修会を実施するなど、尊厳やプライバシーについて勉強し、実践に活かせるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思を尊重し自己決定の存続が図れるような対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様主体の生活を心掛け、利用者様の希望に沿った支援となるよう柔軟な対応ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧など本人様の意思を尊重しながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の持てる力を生かしていただけるよう、配膳準備や後片付け、食器拭き等を職員と共に行い、昼食は職員も同じテーブルでとっている。	入居者の希望を取り入れながら、旬の食材を活かした献立を立て、管理栄養士にも料理の栄養バランスや盛り付けなどのアドバイスをもらっている。また、敬老会やクリスマス会で家族や地域の人と一緒に食事をする機会がある。また、昼食は職員も同じテーブルで摂ったり、配膳や後片付けなども入居者と共に行うなど、食事が楽しみになるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態を把握して、個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行える利用者様には言葉掛けを行い、介助が必要な方には個人に応じた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の排泄案内や行動を察知しての排泄案内、また、自立の利用者様に関してもトイレ内の確認を行い、個々の利用者様の排泄状況を把握しながら、その時々状況に応じた支援を行っている。	排泄表でパターンを把握し、パターンに応じた誘導をしている。また、自立の入居者に対しても、排泄状況を確認しながら、個々に支援している。排泄サインを察知して、トイレに誘導するなど、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品のおやつを取り入れ、また、オリゴ糖の仕様など、出来る限り自然排便となるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は午後入浴を実施しているが、その時々利用者様の状況や入浴希望に添った対応を心掛けている。	入浴は毎日実施し、1日3～4名の方が入れているため、入居者の状況や希望に応じて日時の変更など、柔軟に対応することができる。また、入浴時には音楽を流し、リラックスした雰囲気づくりに努めるなど、入浴が楽しみな時間となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態や日中の様子等の状態把握を行い、できるだけ日中の活性化を図りながら安眠に繋がるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書は、いつでも閲覧できる状態。内服薬変更時の利用者様の症状の変化については、主治医やご家族への情報提供を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、遣り甲斐や喜びを感じていただきながらの生活を送っていただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って外出できるよう努めているが、なかなか思うような対応ができていないのが現状。今後の検討課題でもある。	入居者の希望に応じて、花見、シチメンソウ、浮立等の見学を実施している。外出する際は、入居者の馴染みの場所もドライブコースに入れるなど配慮している。また、散歩や日光浴など、外に出る機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとり一人の希望や力に応じて、お金を所持し使えるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時は、その都度、対応しており、手紙やハガキが届いた時は、返事を書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度、湿度に関しては、1日3回のチェックを行い、快適に過ごしていただけるよう配慮している。	採光良く、不快な刺激がなく入居者にとって心地良い空間となっている。加湿器を設置して、適度の温度、湿度に保たれている。また、職員手作りの作品が壁の随所に掲示しており、四季を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間のテーブルや周辺のソファ、天気の良い日にはウッドデッキなど、お好きな場所で思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物品や好みの身の回りの品の持ち込みについて説明を行い、ご家族で準備していただいている。	各居室にはエアコン、加湿器が設置されているので、各自、温度等の管理を適度に調節できる。使い慣れた物品等を自由に持ち込むができ、物の配置も自宅や移動の安全性を考慮した空間作りをするなど工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた対応を心掛け、安全かつ自立した生活が送れるよう努力している。		